



道と川の駅 花ロードえにわ

道経連会報 No.274 CONTENTS

巻頭言	1
視点 コロナ禍における道内中小企業・小規模事業者を取巻く環境と今後	2
特集 SDGsの取り組み	7
第47回定時総会	16
記念講演会	39
DX講演会	47
常任理事会レポート	58
道経連カレンダー	58
委員会等の動き	59
働き方改革を推進する企業	65
会員企業紹介	68
会員の異動	70
新会員企業紹介	71
グループ活動報告	73
人事・労務相談日	79
北海道の経済動向	80
事務局人事	82
Face to Face	82
わがまち紹介 (シリーズ44)	83



北海道経済連合会 副会長

北條 康夫

トヨタ自動車北海道株式会社
取締役社長

現場をみえる化して手をうつ

私が、トヨタ自動車北海道に着任したのは2017年4月です。早いものでもう4年が経ちました。当時、散歩中、一番気持ちよく感じたことは、名古屋と比べ空気がひんやりして澄んでいることでした。「酸素が濃いのでは?」と誤解するほどでした。花粉が少なかったからかもしれません。北海道に来たことがとにかく嬉しくて、(家族から離れたことは寂しいのですが)とにかく土日は日帰りで、道南、道央、道東まで車を走らせ、出かけました。随所に、素晴らしい景勝地があり、感動の連続でした。しかしながら駐車場すら整備されていない。「これが北海道なのだ」と心に刻まれました。

一方、会社内の工場現場や事務技術職場について感じたことをお話します。各職場からの報告のほとんどが「〇〇をやって、△△という結果になりました。そしてこんな成果が得られました。」という内容でした。物足りなさを感じ、それは何かと考えると、「Plan Doの繰り返しでCheck, Actionがない。すな

わち、仕事がやりっぱなしで、分析と振り返りがないのでスパイラルアップしていかない。」ということだと受けとめました。

もうひとつ感じたことは、「事務技術職場の仕事のほとんどが個人プレーになっていて、他の人の仕事に興味がない。タコツボの中に入って仕事をしている。」でした。そういった中で、多残業や仕事のやり直しをくりかえしている。一方で働き方改革が叫ばれ、根拠のない残業低減が成果になるような活動になっている。

そこで、次のことをトライしていこうと考えました。仕事はすべてGMT(現場をみえる化して手をうつ)というプロセスでまわそう。そして、事務系においては個人からチームで成果を出す仕事のやり方に変えていこうということ、その活動の土台として、「活気にあふれ思いやりのある職場をつくらう」ということを掲げ活動を進めてきました。

製造現場は「質にこだわった基本の徹底」を進める上において、GMTを展開してくれました。例えば「日々の生産活動において、正常異常が見える化し、異常に対して原因を究明し、管理者が確実に手を打つ。」それを

繰り返し行うことにより、上司部下の信頼関係が生まれる。地道ではありますが、悩みながら続けてくれています。

事務技術職場は、コンサルタントにも入ってもらいながら、アウトプットの最大化や、個人・チームの成長を得るための課題ばらしや手打ちについて、チームでしっかり時間をとってコミュニケーションを行う業務スタイルに順次変えていきました。その結果、やり直しが減り結果として、大きく残業低減も図ることができつつあります。まだ、やり始めて2年半ですが、定着に向けしっかり続けていきたいと考えています。

北海道民は少しのんびりしたところがあるのかなと思っていましたが、やると決めたら、素直に着実に進めてくれ、組織の壁をこえて、ありがたい姿である「活気にあふれ思いやりのある職場」に近づきつつあるのかなと感じています。

この自然に恵まれた北海道苫小牧でモノづくりができることを喜びと感じ、地域の皆さんからも信頼される会社を目指していきたいと思っています。



樽前山西山から溶岩ドーム、支笏湖を望む



トヨタ自動車北海道構内のソメイヨシノ